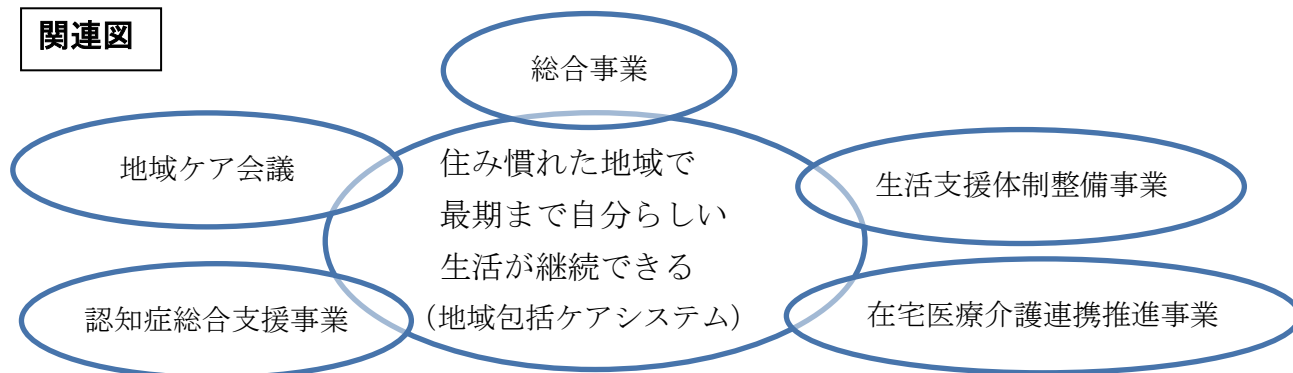


地域包括ケアシステム構築に向けた進捗状況について

1 地域包括ケアシステム構築へ向けた事業概要について

事業名	内容	本町の事業開始時期
介護予防・日常生活支援 総合事業（総合事業）	要支援者へ町独自の多様なサービスを提供、 介護予防の推進、高齢者の社会参加・支え 合い体制づくり等	平成28年4月1日
在宅医療・介護連携推進事業	在宅医療・介護連携の推進	平成28年4月1日
生活支援体制整備事業	生活支援サービスの充実・強化	平成28年4月1日
認知症総合支援事業	認知症施策の推進	平成29年4月1日
地域ケア会議推進事業	地域課題を抽出し地域づくりや施策形成に 反映	平成31年4月1日

関連図



豊山町のビジョン

助け合い 支え合う 健康であたたかなまち
～思いやり 笑顔があふれる 明るいまち～

(豊山町第7次介護保険事業計画 基本理念)

地域包括ケアシステム構築に向けた重点項目

- ・ 自分の健康に関心を持ち、地域で取り組む『**介護予防**』
- ・ 住み慣れた自宅や地域でその人らしい生活が継続できるための『**医療と介護**』
- ・ 高齢者を孤立させない、地域のケアによる『**地域ネットワークづくり**』
- ・ 高齢者の多様なニーズに対応できる、地域でつくる『**生活支援**』
- ・ あらゆる世代や関係機関が認知症を理解し、地域全体で支える『**認知症施策**』
- ・ 個人の困りごとから、住みやすい地域を作る『**地域ケア会議**』

2 地域包括ケアシステム構築に向けた各事業の進捗状況について

総合事業（介護予防事業）

（１）課題

- ・前期高齢者から健康づくりや介護予防に対する意識を持ち実践することができる環境づくり
- ・介護予防を通じた地域のつながりの強化、孤立化予防
- ・高齢者が培ってきた能力や経験を生かし、地域や社会で活躍できるよう高齢者の生きがいづくりや社会参加の推進
- ・運動機能低下者や栄養指導が必要な方への生活に沿った指導及び行動変容への動機付け支援

（２）総合事業の重点事業

【ケーブルテレビで名古屋大学健康長寿シリーズ放送（名古屋大学連携事業）】

目的	令和元年度実績	令和２年度事業計画
自宅で健康長寿に関する正しい情報を入手し、自分のペースで介護予防に取り組むことができる環境をつくる	平成 30 年 10 月より開始 1 番組 15 分、1 日 12 回、月～金曜日放送 [番組内容] ・講義編 19 番組 ・実践編 18 番組	・継続 ・新型コロナウイルス感染予防による外出自粛に伴うフレイル防止策として一部の番組を YouTube 公開中

【参考】番組表（一部抜粋）

名古屋大学健康長寿シリーズ番組表 令和2年 8月

放送時間 1回毎の放送につき、15分の番組を2種類続けて放送しています！ 【1回目】午前6時45分～7時00分 + 7時00分～7時15分 【2回目】午前9時15分～9時30分 + 9時30分～9時45分 【3回目】午後1時00分～1時15分 + 1時15分～1時30分 【4回目】午後3時15分～3時30分 + 3時30分～3時45分 【5回目】午後5時00分～5時15分 + 5時15分～5時30分 【6回目】午後7時30分～7時45分 + 7時45分～8時00分					
・チャンネル番号 11番 ・一部の番組を YouTube で公開中（詳細は最後のページをご覧ください） 					

	月	火	水	木	金
	3	4	5	6	7
午前6時45分～7時	頭すこやか体操④	頭すこやか体操③	頭すこやか体操②	頭すこやか体操①	頭すこやか体操④
午前7時～7時15分	生き生きシニアのための活動紹介	食べられる幸せをいつまでも 実践編	よく知ろう！認知症①	よく知ろう！認知症②	よく知ろう！認知症③
午前9時15分～9時30分	生き生きシニアのための活動紹介②	生き生きシニアのためのウォーキング講座	今日からはじめる、サルコペニア予防	クスリのリスク	食べられる幸せをいつまでも～応用編～

ケーブルテレビ 11 番で、毎日健康長寿に役立つ番組を放送しています。現在、以下の 3 7 番組を放送しています！ぜひ、ご覧ください！

- 講義編
 - ・健康長寿の秘訣
 - ・健康長寿と栄養①～③
 - ・よく知ろう！認知症①～④
 - ・生き生きシニアのための活動紹介①②
 - ・食べられる幸せをいつまでも 知識編
 - ・食べられる幸せをいつまでも 応用編
 - ・クスリのリスク
 - ・今日からはじめる、サルコペニア予防
 - ・排泄のお困りごとスッキリ解決 ～排尿編～
 - ・排泄のお困りごとスッキリ解決 ～排便編～
 - ・高齢者医療の現状 ①外出促進、②ACP
 - ・高齢者特有の疾患について ～脳卒中編～

- 実践編
 - ・キラリ！クッキング教室①～⑧（★）
 - ・生き生き体操①～④（★）
 - ・頭すこやか体操①～④（★）
 - ・食べられる幸せをいつまでも 実践編
 - ・生き生きシニアのためのウォーキング講座

期間限定YouTube公開中

上記、番組一覧の中で★マークがついている番組のみ、YouTubeで期間限定公開しています。町ホームページからご覧いただけます。以下の手順でアクセスしてください。

町ホームページ → 健康・医療・福祉 →
高齢者の福祉 → 介護予防 →
名古屋大学健康長寿シリーズ放送に関するご案内

【豊山町健康長寿大学（名古屋大学連携事業）】

目的	令和元年度実績	令和2年度事業計画
高齢者が要介護状態を予防する多様な方法を主体的に学ぶ場を提供。希望者に対し運動・栄養インストラクター養成を行い元気な高齢者が地域を支えるシステムを構築する。	参加登録者46人 令和2年1月9日から開始するが、新型コロナウイルス蔓延に伴い3月3日（第12回目）より中断。中断中も定期的に大学通信を送付。	7月 体力測定会 8月 ICT教室 9月 大学再開（残り23回分実施）

・時間の内訳

	時間（回）	回数	総時間
講義	1時間	21回	21時間
運動教室	1時間	24回	24時間
調理教室	2時間	12回	24時間
ICT教室	2時間	4回	8時間

（計77時間）

・内容の内訳（例）

講義	調理教室	運動教室	ICT教室
・サルコフレイル ・排泄トラブル ・栄養評価方法 ・アドバンス・ケア・プランニング（ACP） ・脳卒中予防 ・服薬管理 ・認知機能低下講座	・高血圧・糖尿病予防（減塩の工夫） ・認知症予防 ・豊山町健康長寿メニューの作成	・セラバンドを使用した筋力トレーニング	・YouTube ・LINE ・スマートスピーカーの活用

【住民主体サロン活動支援事業】

目的	令和元年度実績	令和2年度事業計画
高齢者が介護予防活動や仲間作りのために自主的にを行うサロンの継続支援のため活動費を補助する	7団体、94回、1,486人 サロン交流会 1回	継続

【介護支援ボランティア事業】

目的	令和元年度実績	令和2年度事業計画
高齢者がボランティア活動を通じて、社会参加をする。	・登録者 39人 ・ポイント交換者 29人 ・ボランティア受入登録団体数 10団体 - 介護保険施設 7団体、介護予防教室・町のイベント 3団体 ・ボランティア交流会 1回9人	継続

【その他の介護予防教室の予定】

資料2 令和2年度あおぞら事業日程表 P1 介護予防教室・サロン日程一覧参照

【地域リハビリテーション活動支援事業 重症化予防訪問指導】令和2年度新規事業

目 的	作業療法士・栄養士を自宅に派遣し、本人への動機付け、本人の機能や生活環境に沿った指導、本人及び家族への正しい情報提供を実施し、自立支援・重症化予防を図る。また、専門職の視点から介護支援専門員が行うケアマネジメントへの支援を行う。
対象者	事業対象者、要支援認定者
指導内容	【作業療法士】 ・本人の運動機能や生活環境に沿った、生活動作（食事、料理、掃除など）の方法（腰痛持ちの人の洗濯の干し方、麻痺がある人の料理の仕方など） ・目標設定時に目標達成可能なレベル（例：1年後〇〇ができる） ・自宅内で転倒しやすい箇所の移動時の注意点や動作について 【栄養士】 ・自宅の調理環境や調理動作に応じた栄養指導 ・糖尿病など食事制限がある人の日常生活の注意点や工夫点
利用回数	1回あたり1時間程度 ・作業療法士 1人あたり2回（初回訪問・評価訪問） ・栄養士 1人あたり1回

在宅医療・介護連携推進事業

（１）目的

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう、在宅医療と介護を一体的に提供するための支援を行う。

（２）在宅医療介護連携に関する課題

- ・尾張中部地域外の患者流入が多く、退院時の連携不足により住民が必要な医療及び介護サービスを切れ目なく利用できない恐れがある
- ・医療と介護関係者の情報共有ツール（電子@連絡帳）の尾張中部地域外の広域的な連携体制が構築されたため、連携を強化する
- ・医療や介護が必要となった時に、住民が望む生活を実現できるため、住民への在宅医療や介護サービスの情報及び相談窓口の普及

（３）令和元年度実績及び事業計画

平成30年度から西名古屋医師会に清須市・北名古屋市・豊山町合同で在宅医療サポートセンターを委託し、以下の事業を協働し実施

項 目	内 容	令和元年度実績	令和2年度事業計画
在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	豊山町地域包括ケアシステム推進協議会の開催	年2回開催	年2回
在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携	尾張中部地域在宅医療・介護連携推進協議会及びワーキング会議への出席	協議会 年1回 ワーキング会議 年4回	左記同様
医療・介護関係者の情報共有の支援	豊山レインボーネット（電子@連絡帳）をインターネット上で公開	患者登録数 8人	レインボーネットの普及。災害時の活用方法の検討。
在宅医療・介護関係者の研修	尾張中部医療圏在宅医療・介護連携研修会	ACPの実践と「もしバナカード」 参加者66人 (実施主体：左記の協議会)	検討中
	豊山町多職種連携研修会	口腔観察シートを使用した要介護高齢者の経口摂取支援 20人	(案) 高齢者虐待に関する多職種の連携について
		地域ケア会議について 17人	
	豊山町ケアマネ会支援	年4回開催	年4回
地域住民への普及啓発	在宅医療推進講演会	落語で学ぼう！エンディングノート普及講演会 166人	認知症普及啓発映画上映会「毎日がアルツハイマー1・2」 1：9月23日（水） 2：10月10日（土）
		在宅医療普及講演会「在宅医療って何だろう？」 講師：訪問診療医 37人	
	普及イベント	健康福祉フェスティバルで在宅医療・介護に関する普及コーナー設置	

生活支援体制整備事業

(1) 目的

単身や夫婦のみの高齢者世帯、認知症高齢者等の多様な生活支援のニーズを抱える高齢者が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるために必要な生活支援サービスについての基盤整備を推進する。

(2) 課題

- ・高齢者が何らかの事情により他者の援助を必要とする場合、利用できる支援が介護保険サービスに依存しているが、住民のニーズに対応しきれない場合も多いため、他の支援体制の構築が必要
- ・独居高齢者、高齢者世帯の孤立を防ぐ地域づくり

(3) 事業構成及び令和元年度実績

事業	内容	令和元年度実績	令和2年度事業計画
協議体の開催	地域の高齢者支援に携わる方との情報共有及び連携・協働による取組を推進する為の会議	年2回、17人	年6回 (介護保険計画策定の検討も含む)
コーディネーター活動	地域の資源開発、ネットワーク構築、ニーズと取組のマッチングを実施	民生委員等が高齢者支援のニーズ調査。町内の店舗に高齢者の生活支援に対するアンケート調査を実施。	左記のアンケート結果の分析。高齢者の見守り体制の構築のため関係機関との連携体制の構築。

認知症総合支援事業

(1) 課題

- ・認知症の初期段階で医療受診につながらず、進行し生活や家族に支障が出始めてから、受診や相談につながる方が多いため、早期診断・早期対応ができる体制が必要
- ・家族が認知症介護の負担を抱え込みやすいため、家族への支援が必要
- ・徘徊症状により行方不明の恐れがある方の相談が増加しているため、事前登録制度・位置情報検索機器利用補助の普及、警察及び地域住民の協力を基にした支援体制の構築が必要
- ・徘徊時に起こしてしまった偶発的な事故に対する保障制度の構築が必要
- ・新規の認知症サポーター養成と協力体制の構築

(2) 事業

【認知症初期集中支援チームの設置】

認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築する。

[訪問支援対象者]

原則として40歳以上で在宅で生活しており、かつ認知症が疑われる人又は認知症の人で以下のいずれかの基準に該当する者

- ①医療サービス、介護サービスを受けていない者、または中断している者で以下のいずれかに該当する者
 - ・認知症の臨床診断を受けていない人
 - ・継続的な医療サービスを受けていない人
 - ・適切な介護サービスに結びついていない人
- ②医療、介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している者

事業	内容	令和元年度実績	令和2年度事業計画
認知症初期集中支援チーム設置 (済衆館病院へ委託)	- 認知症初期集中支援チームの普及 - 相談時、随時訪問 - チーム員会議開催	対象者 2人(支援終了者2人) チーム員会議2回 訪問件数 2回	- 継続 - 普及活動、対象者把握の強化

【認知症による個人賠償責任保険事業】令和2年度新規事業

目 的	認知症による徘徊のおそれがある方やそのご家族が安心して生活ができるよう、徘徊中に起こしてしまった偶発的な事故に対する保障体制を整備する。
内 容	徘徊中に他人にケガをさせてしまった、他人の財産を壊してしまったなどにより賠償責任を負った場合に備え、認知症の方を被保険者とする個人賠償責任保険（補償額：上限1億円）に町が契約者として加入する。保険料は全額を町が負担する。
対象者	豊山町認知症徘徊高齢者等SOSネットワーク事業の「事前登録者」のうち、在宅生活者で保険加入を希望する方

【認知症サポーター養成講座の開催と協力体制構築】

①認知症サポーターとは

- ・認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、支援する応援者
- ・何か特別なことをするのではなく、できる範囲で手助けを行うというもので、活動は任意
- ・市町村や職場等で実施されている認知症サポーター養成講座の受講が必要

②養成講座の内容

住民に認知症の症状や対応に関する講座を実施。受講した者に認知症サポーターの証である「オレンジリング」を配布する。

③実績（平成18年度から実施）

令和元年度		サポーター養成者数（累計）			
小中学校 福祉実践教室	出前講座	サポーター数	内訳		
467人	20人	4,422人	成人	小中学生	商業施設等
計 487人		(累計)	1,591人	2,706人	125人

【わんわんパトロール隊の発足】令和2年度新規事業

地域の見守り体制及び徘徊高齢者等への支援体制の構築を目的に、犬を飼育する住民を対象に認知症サポーター養成講座を実施し、その犬をわんわんパトロール隊として登録をする。

地域ケア会議（地域ケア個別会議）

（１）目的

個別ケースについて多職種で検討を行い、個別課題の解決を図るとともに、多職種のネットワーク構築、ケアマネジメント支援、地域課題の把握をする。

（２）参加者構成

個別ケース提供者	担当する介護支援専門員
アドバイザー （各専門職団体に出席依頼）	医師、歯科医師、薬剤師、理学療法士、歯科衛生士、栄養士、在宅医療サポートセンター（SC）職員
医療・介護専門職	下記日程に合わせ関係機関に周知し自由参加

（３）令和元年度実績

開催数	検討事例数	参加者 (延人数)	参加者内訳（延人数）									
			医師	歯科 医師	薬剤師	理学 療法士	作業 療法士	歯科 衛生士	栄養士	在宅医 療 SC	介護支援 専門員	サービス 事業所
3	4	52	3	3	3	3	1	3	3	3	27	3

（４）令和２年度事業計画

		事例
1	5月29日（金）	短期集中予防サービス利用
2	7月31日（金）	要支援認定から要介護認定に移行
3	9月25日（金）	地域での見守り
4	11月27日（金）	在宅医療
5	1月29日（金）	認知症支援
6	3月19日（金）	多職種連携

時間：午後１時３０分～３時

場所：保健センター ２階 研修室

※コロナウイルス感染拡大防止のため第１・２回目は中止。今後は電子@連絡帳を活用した地域ケア会議の開催を検討中。